

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572007839		
法人名	医療法人 寿光会		
事業所名	ぐるーぷほーむ「こさか」		
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上前田16-11		
自己評価作成日	平成26年1月9日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は自治会のつながりがより深くなっている。避難訓練時には協力員が駆けつけてくださり、避難誘導に参加・協力していただいた。また自治会役員のご理解を得て、近隣住民間の緊急連絡網の作成や非常時には自治会館に避難できるような体制も整えていただいている。さらには、小坂消防署の協力を得て消防職員による消火及び避難訓練を行った。入居者・職員・地域住民それぞれがより実践に近い訓練を体験できたことで、新たな課題や地域との連携の重要性を知ることができた。地道ではあるがこうした活動が、町内の他事業所の参考になっているということを行政から伺い、それがさらに励みになっている。また地域の方々に認知症に対する理解を深めていただける貴重な機会になったり、外出付添いや窓拭き作業などのボランティア協力にも繋げることができている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年1月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「1日笑顔で過ごしましょう」の事業所介護理念がそのまま利用者の生活に浸透し営まれており、全利用者を全職員でモニタリングし、一人ひとりの日課計画表に基づいてケアするなど利用者の視線に立って支援している。地域との関わり合いを大切にしており、近隣住民との日常的な交流のほか、自治会加入、地域の行事への参加など地域へ溶け込んだ良好な関係を築いている。また、避難訓練の際には、地域住民の協力を得ており、災害時の協力体制を整えている。協力医との医療連携を活かして、週1回の看護師訪問による健康管理面での支援を行っている。今後、地域包括支援センターなどと協力して地域における認知症ケアの啓発などにも力を注いで、地域から頼られる事業所になることを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己評価 実践状況	外部評価	
	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>		
1 (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とあわせて、職員間で「一日笑顔で過ごしましょう」をモットーにしているが、毎日の関わりの中で意識付けがうまくできずにいる。	理念を事業所内に掲示することで外部の人々に事業所の考え方を示したり、職員に意識付けを図っている。月のミーティングや日々の申し送りで理念について改めて話し合う機会は少ないが、職員は理念に沿ってケアに取り組み、温もりのある楽しい暮らしの提供に心掛けている。
2 (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、事業所と地域との行事への参加交流や、町の行事見学ボランティアや事業所内窓拭きボランティア協力など新たな交流もふえている。さらに避難訓練への協力体制もより確かになってきている。	自治会に加入し、総会や地域の行事などに参加している。事業所の行事案内など自治会長を介して町内に回覧してもらうなど良好な関係を保っている。また、近隣の方がボランティアとして来訪し利用者と触れ合っている。
3 ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	上記を通して地域の皆さんに認知症の方々に接していただき、少しずつ理解を深め、一人ひとりの個性や支援の方法を知っていただく機会を得ながら地域とのつながりを深めている。	
4 (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見や要望などは職員間で共有し合い、サービス向上に活かせるよう努めている。	会議では事業所の行事や活動内容などを報告している。議題をもとに委員から質問や助言、意見などがあり、充実した話し合いとなっている。意見や助言などはミーティング・申し送りなどの機会に検討を重ね、サービス向上や地域との関わりを深めるために活かしている。議事録は詳細に記録されている。
5 (4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して連携を深め理解、協力を得られている。	町担当者は運営推進会議の委員でもあり、折にふれ事業所の状況を伝えている。地域包括支援センター職員とも相談し、機会あるごとに連絡を取り、連携を密に問題解決に取り組んでいる。
6 (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関や窓の施錠しているが、原則として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束に該当する事例はない。身体拘束防止のマニュアルを作り、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。利用者が外に出そうな素振りがあるときは、さりげない声かけや見守りをするように心掛けている。

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の体調や精神的ストレスに配慮しながら、お互い協力しあって仕事に臨めるように努めている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方が一名いる。ご本人の希望によって、小遣いの必要時には関係者と連絡、相談しながら連携を図り支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要時には内容についてしっかりご家族に説明して、ご理解いただけるよう努めている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加していただいた時に、ご意見やご要望を伺うように努めている。また、面会時のなげない会話の中から、ご家族の意向や思いを伺うことに努めている。	家族に利用者の近況報告を1～2ヶ月毎に写真を入れて送付している。家族の面会時などに利用者の状況報告をとおして、意見や要望を汲み取る努力をしており、ミーティングや申し送りなどで話し合い、速やかに改善に向けた取り組みを行っている。	家族などに事業所の近況を知ってもらって、意見・要望を引き出すためにも事業所の「たより」の発行の検討を期待する。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定期ミーティングで職員の意見や提案を聞いている。また日常業務の間でもコミュニケーションを図りながら、職員の声に耳を傾け反映させている。	月1回のミーティングで運営などについての話し合いの機会を設けており、職員は意見を出し合い、管理者は耳を傾け理解に努め、その際の意見や提案などを運営に反映するよう努めている。利用者の実情に合わせて入浴時間を設定するなど取り組みに繋げている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公平な視点で職員の仕事に対する状況を把握し、安心して仕事に望めるよう配慮している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での介護福祉士勉強会や感染症、おむつ講習会など職員が参加できる機会がある。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿角市GHケアマネ協議会に出席し、そこで開催される講演会や事例検討会、調理講習会にできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮し同業者の交流を図ることに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を伺いながら、できるだけ会話する時間を作り、少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にとっては、新しい環境にご本人がうまく馴染むことができるか不安でいることが多く、ある程度の期間は、ご家族への連絡をこまめに行ってご本人の様子をお伝えし、安心していただけるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係が続き、職員の年齢層によって会話のやりとりが孫や嫁などお互い家族のような関係性を保つことがある。また「お互いさま」「支え支えられている」ことを職員が実感できる関係性を築けている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月一回の近況報告書でご本人の日頃の様子をわかりやすく伝えられるように努めている。また誕生日にはご家族と相談しながら、できるだけ共に過ごせる時間を作っていただけのように働きかけている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの申し出がない限りは、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	利用者が培ってきた家族や社会との関係が入居後も継続できるように馴染みの理・美容院や買い物へ出掛けたり、誕生日に自宅への外出や外食を家族の協力も得ながら支援している。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合わない人同士のトラブルが多く、日頃の感情の積み重ねがお互いのしこりになっているため、タイミングよく適切な仲裁に職員が関わる必要があるとあり、お互いが孤立しないよう努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には、ご希望にそったフォローを行い相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関りのなかから、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その思いを職員間でも共有できるようにしている。また、困難な場合にはできるだけその方の立場になって考え支援できるように努めている。	日常の会話や家族からの情報をもとに、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、利用者一人ひとりの情報として、申し送りなどで持ち寄り共有するよう努めている。利用者の希望で晩酌に対応した支援がある。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時や入居時にはご本人やご家族、また他事業所ケアマネなどからの情報収集を行い、これまでの生活歴を把握できるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活の中で、小さな変化やいつもと違う様子や出来事を共有し合い、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員ミーティングで一人ひとりの状況について話し合い、より良く生活できるようにしている。	毎月のミーティングで利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。介護計画の見直しは6ヶ月に1回実施しているほか、必要があれば随時行っている。面会時の家族の要望や職員の意見を反映させて、利用者が自分らしい生活を継続できるように日課計画表・介護計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りと個人記録で職員間の情報共有を行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの床屋、美容室や不穏時のご本人の希望により、包括支援センター職員に話を聴いていたいたり、地域の方に声をかけていただくなど協力を得ながら必要に応じた支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医に継続受診して馴染みの環境や関係を断ち切らず、適切な医療が受けられるようにしている。	利用者及び家族の希望を尊重し、今までのかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。通院介助は基本的に事業所で行っている。協力医とは予防接種や夜間の緊急態勢など連携がとれている。看護師の週1回の訪問により利用者の健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療連携看護師の訪問時には日常生活の様子や受診報告など含めた情報や気づきを伝え、必要に応じたアドバイスや適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族と情報を共有しながら、病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には重度化や終末期に向けた方針についてしっかりと説明し、ご理解いただけるよう努めている。またご本人の状態によってご家族のご意向を伺いながら話し合い、他関係者との連携を図りながら最善の支援となるよう努めている。	重度化に関する指針があり入居時に利用者・家族に説明している。状態に変化が生じた早い段階で利用者・家族などと話し合い、主治医やほかの関係機関と連携を図り、対応の検討に結び付けていくことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的なマニュアルはあるが、実践力を養うための訓練を行っておらず、その必要性を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時(夜間想定)には地域の協力員の協力を得て避難誘導できる体制ができている。また近隣住民をメインとした緊急連絡網の体制も新たに整いつつある。	消火、伝達訓練、煙体験なども盛り込まれた避難訓練は消防署立会いのもと年2回、実施している。災害時の緊急マニュアルの作成、火災通報装置、スプリンクラーの整備など非常時に備えている。避難訓練への地域住民の参加が得られ、屋外での利用者の見守りを依頼するなどの協力体制を築いている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々葛藤しつつも、できるだけ職員の精神的な心のゆとりを持つように努めている。	職員は常に「笑顔」で接し、言葉遣いに注意し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。特に、排泄支援や入浴支援等の場面ではさりげなく小声で声かけするなど配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや意向に耳を傾け、ご自分で選択決定できるよう努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の一人ひとりの生活スタイルを大切にしながら暮らしを過ごせるよう努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご本人らしさを失わないような身だしなみを整えられるよう支援できている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々状況に応じて準備や片付けを手伝っていただき、食事時は職員もゆったりとした気持ちで一緒に食事しながら好みの把握に努めたり美味しく食べていただけるよう配慮している。	職員が献立を作成している。普段の会話から食べたいものを確認し、季節のものなどメニューに取り入れている。利用者はできる範囲で茶わん拭きや下膳など手伝っている。食事は利用者と職員と一緒に会話しながら、和やかな雰囲気の中でゆっくりと時間をかけて楽しんでいる。時には法人内の栄養士にメニューなど相談しながら栄養管理に努めるよう期待する。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量チェックと毎月の体重測定値を参考に野菜中心にバランスよく肉や魚を取りいれている。また居室にお茶を常時準備したり、こまめに声かけして水補していただけるように努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや休息時の義歯洗浄、また夕食後には義歯洗浄預かりや歯間ブラシを使用して歯みがき介助を行うなど、ご本人の状態にあわせた口腔ケアに努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行不安定な方には居室内にポータブルトイレを置いたり、また適度な排泄の声かけを行ってトイレ誘導を促し、自立した排泄ができるよう支援している。	リハビリパンツやパットを使用しながら、自立した排泄を目指している。排泄チェック表や利用者個々の行動パターンを確認しながら声かけや誘導など行い、自尊心を傷つけないようさり気なく支援している。夜間はポータブルトイレの利用者もいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握しながら下剤を調整して服用していただいている。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕食後の入浴を開設当初から継続しているがタイミングや健康状態を考慮して夕食前に入浴していただくことがある。また「入りたい」「入りたくない」とその時のご本人の希望を大切に支援を行っている。	週3回の入浴となっている。利用者一人ひとりの希望や心身の状態を把握し、時間を調整し気分転換を図り、清潔に保てるように支援している。更衣室は暖房設備が整っており、心遣いが感じられる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向を伺いながら、それぞれの生活リズムに合わせた支援ができています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があった場合には申し送りで情報を共有するとともに症状に変化がみられないか様子確認に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌や夜間のテレビ、台所の手伝いなど一人ひとりの生活歴を活かし張り合いや喜びに繋がる支援を行っている。また不穏が強く気分転換を必要としている方には買物や散歩などに付添って気分転換に努めている。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご家族や知人からの外出希望にはいつでも対応できるようにしている。また状況の可能な範囲では、買物と一緒に掛掛けていただいたり、ご本人の希望時にはできるだけ添えるように努めている。	利用者の希望や心身の状態、天候条件を考慮し、散歩や買物など戸外に出て外気や様々な刺激に触れることのできる機会を設けている。事業所の年間行事の花見・紅葉ドライブや地域の行事への参加など楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で少額の小遣いを持っている方、またご本人の希望によりご家族にご相談して、小遣いをお預かりしている方がおり、希望に応じて買物に付添い自分でお金を使う機会を得られるよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親族、知人など外部からの電話や手紙の取次ぎが主体であるが、ご家族からの荷物が届いた時にはご本人が電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感を採り入れた掲示物を飾ったり鉢植えを窓際において安らぎを感じていただけるような環境づくりをしている。またテレビ音や臭い温度、湿度管理に配慮して快適な空間で過ごせるようにしている。	共有空間は天井が高く開放感があり、明るく清潔に保たれており、柱・梁の木目は落ち着く雰囲気である。また、和室があり、いつでも休息が出来るようになっている。廊下には行事の写真や設立10周年を記念して作った10年分の壁新聞が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご本人の状態やお互いの相性を考慮してテーブルやイスを配置している。またトラブルになりやすい入居者同士の視線にも配慮しながら共用空間をゆったり過ごせる場所にできるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れた愛着のあるものを持ち込んでいただいている。	居室は広さの違いで2タイプある。各居室は明るく清潔でロッカーが設置されており、ゆっくりと落ち着いて過ごせるよう配慮されている。家族の協力を得て利用者が使い慣れたものを持ち込み、これまでの生活の雰囲気が保たれるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活かせるように工夫したトイレ扉の手作りの札(「使用中」「空」と裏表に書いている)が、「わからない」「忘れる」ことによつて小さなトラブルが起きてしまい、うまく役立っていない。		